

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-25	実施計画番号	32	事業開始年度	平成23年度
事務事業名	家読講演会の実施			事業終了年度	
担当課名	スポーツ・生涯学習課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	毎月第4日曜日を「十和田市家庭読書の日」に制定したことにもない、家庭での読書の楽しさを市民に周知するための講演会を実施する。				
事務事業の目的	家庭において、親子と一緒に読書を楽しむことにより、子どもの読書に対する興味や関心を引き出すとともに、心の豊かさを育む。				
実施状況	学校関係者や一般市民まで幅広い層の参加者があったが、平日の開催ということもあり、参加者が41名と昨年度に比べ少なかった。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	15	18	18
	人件費(千円)	540	648	648
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	98	65	116

【指標】

活動指標	活動指標名①		講演会開催数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			回	1	1	1	
	活動指標名②						
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
成果指標	成果指標名①		受講者数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			人	目標値	50	50	50
				実績値	68	41	
				達成度(%)	136%	82%	
	成果指標名②						
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			目標値				
			実績値				
			達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	C	0	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民・時代のニーズに合う内容となるよう講座内容の見直しをしている。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	2 / 4	市民・時代のニーズに合う内容となるよう講座内容の見直しをしている。	
	存在意義の見直しの余地	2 / 4								
市民・時代のニーズに合う内容となるよう講座内容の見直しをしている。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">3 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">受講者が年々減少している、また、リピーターが多く新規の参加者が少ないことから、多くの方に参加していただくためにも周知方法を考える必要性がある。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	3 / 6	受講者が年々減少している、また、リピーターが多く新規の参加者が少ないことから、多くの方に参加していただくためにも周知方法を考える必要性がある。	
	成果向上の余地	3 / 6								
	受講者が年々減少している、また、リピーターが多く新規の参加者が少ないことから、多くの方に参加していただくためにも周知方法を考える必要性がある。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	5	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市広報や駒らん情報めーる、SNS等を利用する、また、配布物についてはできる限り持参することにより、コスト削減が図れる。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	1 / 6	市広報や駒らん情報めーる、SNS等を利用する、また、配布物についてはできる限り持参することにより、コスト削減が図れる。	
	コスト削減の余地	1 / 6								
	市広報や駒らん情報めーる、SNS等を利用する、また、配布物についてはできる限り持参することにより、コスト削減が図れる。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	B	1	3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">リピーターが多く、新規参加者が少ないことから受益者の偏りが多少ある。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	1 / 4	リピーターが多く、新規参加者が少ないことから受益者の偏りが多少ある。	
	受益者負担適正化の余地	1 / 4								
リピーターが多く、新規参加者が少ないことから受益者の偏りが多少ある。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
			現在の適性	13 / 20	改善の余地		7 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **13** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **7** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

有効性を改善して継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

開催日時・周知方法の検討、講師の選定に重点を置き、有効性を改善して継続する。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

他市町村の情報等を収集し、講師選定を行うとともに、ポスター掲示やチラシ配布の強化を図り、受講者数及び新規受講者の増加につなげる。